

令和7年第4回定例会行政報告

本日ここに、令和7年第4回定例会を招集しましたところ、議員各位にはご多用な折、出席いただきまして、御礼申し上げます。

只今、議長のお許しをいただきまして、議会に先立ち、行政報告として、直近の主要な事業や政策課題の進捗状況など、行政活動の一端を申し上げ、議会の皆様始め、町民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

先日、厳島湿生公園で開かれた「あかりの祭典」は、小学校行事を地域が引き継ぎ、町民主体のイベントとして、地区や町の枠を超えた魅力あるものとなり、改めて感銘を受けました。実行委員会、自治会等を中心に尽力された方々に、心より感謝をお伝えしたいと存じます。

町も「人を大事に仕事で応える」を合言葉に、令和7年度も職員一丸となって事業推進に務めているところですが、今回の行政報告では、前回の行政報告以降、すなわち令和7年6月議会以降の本町の主な動きについて、特に、

1. これからの学校に向けた意見聴取
2. 子育て支援センター、日本語指導員の拡充
3. 令和8年度予算に係る県要望
4. 井ノ口歩道橋の撤去と安全対策
5. 美・緑なかいフェスティバルの展開
6. 総合防災訓練と防災情報提供方法の改良
7. 生涯学習融合施設の進捗状況

をご報告します。

1. これからの学校に向けた意見聴取

現在策定中の「なかい教育ビジョン」の意見聴取の一環として、2つの小学校高学年の児童、中学校全生徒によるワークショップが「町の学校の『未来予想図』をつくって、町長さんに伝えよう」と題し、6月から7月にかけて各校で開催されました。学校を一番活用している子どもたちから、学習・生活環境の整備、これからの多様な学びに係る率直な意見が寄せられ、今後の学校のあり方だけでなく、次年度予算にも生かしていく必要性も見えました。8月には教育懇談会として、町内で学校教育・社会教育に携わる方々による同テーマでの

ワークショップも開催しました。併せて今後の本町の教育に活かしてまいります。

2. 子育て支援センター、日本語指導員の拡充

町子育て支援センター「ひまわり」では、7月より第2、第4土曜日午前中の開館を始めました。これは、直接支援にあたる、子育て支援アドバイザーの発案によるもので、開始以来、平均して22人の利用があり、好評のうちに定着しています。

また、県の市町村立学校働き方改革加速化補助金を活用し、4月より、多言語話者の子どもたちの教育活動に造詣のある、日本語指導員を増員し、外国につながるの児童・生徒の支援を拡充しています。先ごろの報道にあったように、人口に占める本町の外国籍住民は5%となる中、多文化共生の体制づくりを引き続き進めてまいります。

3. 令和8年度予算に係る県要望

7月から8月にかけて、県議会並びに県に対し、翌年度県予算に関する要望事項を提出しており、今回は、①令和6年台風10号の被害を踏まえ、町が国庫補助を用いて取り組んだ農地災害復旧工事に対する、農業土木技術者の人的支援②平成27年度から20年間の暫定利用である、南部地区メガソーラーの跡地利用への取り組み③県西地域の集中し、本町も該当する4つの図書館未設置町への県立図書館による支援について取り上げました。改善には引き続き声を上げていくことが必要です。なお、本町では今年度より向こう10年、県からの土木職員を派遣いただいていることを申し添えます。

4. 井ノ口歩道橋の撤去と安全対策

井ノ口小への通学に使われてきた井ノ口歩道橋は、昭和44年に県が設置し、地域を特徴づけ、親しまれてきました。その後の調査で老朽化と耐震性の不足などから、通行者の安全確保のため9月から撤去工事を行いました。それに先立ち、学校の意見を踏まえ、松田警察署に横断歩道及び押しボタン式信号機の設置を要望しました。現在、学校角の横断歩道周辺に安全対策を施し、こ

ども安全パトロール員、交通指導隊の協力を受けながら、子どもたちの安全指導を行っています。さらなる要望や安全指導の人的強化も必要です。合わせて、町が長年、県に要望してきた井ノ口公民館前の交差点周辺の歩道整備についても、JAかながわ西湘側の歩道の整備が、今年度中に整う目処も立っており、それらを踏まえ一層の安全環境を整えてまいります。

5. 美・緑なかいフェスティバルの展開

町の魅力を町ぐるみで内外に広める、美・緑なかいフェスティバルは、3年来エコロジーをテーマに加え、いわゆる3Rの推進やごみを出さないイベントに生まれ変わりつつあります。10月19日に行ったフェスティバルでは、スーパーフォーミュラカーの出展や、あしがらJCによる熱気球遊覧等に加え、今年は1万人を超える来場者がありました。エコ化の取り組みについては、中井の環境を良くする会の協力を得、新たにペットボトルキャップアートに挑戦し、7万4,347個、172.9kgのキャップが寄せられ、なかまるを描いた作品ができました。またキャップの売却益が寄付され、86人分のワクチンに生まれ変わりました。

6. 総合防災訓練と防災情報提供方法の改良

例年の猛暑の時期を避け、昨年度から時期を変更して、11月16日に行った総合防災訓練は、各自主防災会での訓練に加え、1,650人の参加を得、井ノ口上地域を対象とした重点地区では、従来の訓練に加え、見せる避難所として体育館に避難所の様子を再現し、マンホールトイレを用意するなど、災害に備えた防災資材をご覧いただきました。また町職員は、応急の医療救護所、福祉避難所、ご遺体収容所の開設や本庁舎止水版設置訓練を並行して行い、今後再整備していく、各種団体との連携や、受援計画も含んだBCPの取り組みにつなげる知見を得ることができました。また、12月1日より、防災行政無線アプリから新たな防災行政無線配信システムに移行し、放送した内容やお知らせがアプリを介さず、LINE等各種SNSに配信されるほか専用ホームページからも確認いただけることになりました。

7. 生涯学習融合施設の進捗状況

「行きたくなる、居たくなる、(そして本町に)暮らしたくなる」、役場周辺拠点整備と一体的に行う、新たな生涯学習融合施設の取り組みは、本年2月の設計者選定プロポーザルで選ばれた SUGAWARADAI SUKE 建築事務所により、基本設計を経、実施設計の段階に入っています。従来型の「行政ありき箱ありき」ではなく、使う町民が主体となる「人ありき活動ありき」の施設づくりに向けた、昨年度のわいがやサロンに引き続き、基本設計段階でも、ワークショップでの意見聴取や、設計者と直接、対話ができる機会を定期的に設定し、意見交換が行われ、それが設計の細部に生かされています。

一方、四半世紀ぶりの大型公共建築であり、農村環境改善センターの解体後を見据え、交流・防災機能を合わせ持った広場を含む、役場周辺拠点整備を行うことで、多くの費用がかかること、今後の老朽化した学校への対応、中長期の財政運営も含め、町民の皆様にも大変なご心配、またご不安を与えています。本議会でも、おふたりの方から陳情も提出されたことと合わせ、切実に受け止めており、ここに深くお詫び申し上げるとともにご理解に務めてまいります。

この度、まとまってきた実施設計を通し、確実な費用と財政的な見通しが整いましたので、先般11月27日の議会全員協議会で最新図面とともにご報告させていただきました。

これらの見通しにより、中長期的な行政課題にも耐えうる状況であることから、進捗状況と合わせ、12月中には工事等も含む当該自治会への説明、1月下旬には地域懇談会、並びにインターネット等の媒体を通じ、ご説明を通し、町民のご理解を深めてまいりますので、何卒ご理解いただきますよう、よろしく申し上げます。

今議会でも生涯学習施設をはじめ、一般質問でも議員各位より多様な課題を取り上げていただいています。活発な議論となりますようお願い申し上げます、行政報告いたします。

令和7年12月2日
中井町長 戸村裕司